

第 4 次第 3 回練馬区立中学校選択制度検証委員会 議事

日時	令和 7 年 10 月 28 日(火) 午前 10 時 00 分～11 時 15 分
場所	練馬区役所本庁舎 5 階 庁議室
次第	1 開会のあいさつ 2 案件 選択制度全般に関する検証 (ア) 検証委員会の課題とアンケート状況について (イ) 選択制度の継続について (ウ) 選択区域の設定について (エ) 学校の魅力向上と制度周知などについて 3 事務連絡
配布資料	会議資料 P 1 ～P 5 別紙 1 中学校選択制度に関するアンケート（区立中向け） 別紙 2 中学校選択制度に関するアンケート（区立外向け） 別紙 3 中学校選択制度に関するアンケート（教員向け） 別紙 4 隣接校の状況と隣接校以外からの通学者(現中学 1 年生) 別紙 5 選択制度実施状況（令和 2 年度入学～令和 7 年度入学） 参考 令和 8 年度入学中学校案内冊子 参考 練馬区通学区域図（会議後回収）
出席委員 （名簿記載 順・敬称略）	酒井 朗、鈴木 英明、武井 和幸、田邊 克宣、榮田 良晃、 蓮池 和彦、松永 紀子、宮田 こずえ、吉田 基洋、 新井 直子、小野寺 祐一、森 博樹、佐川 広
欠席委員 （敬称略）	竹内 勝己、田中 律子、関口 泰五
区出席者	教育施策課長 竹岡 博幸 学校施設課長 柴宮 深 教育指導課長 佐藤 永樹 教育振興部副参事 佐藤 勝也 学務課長 竹内 康雄 学務課学事係長 後藤 浩樹

1 開会のあいさつ

【委員長】  
ただいまより第 3 回練馬区立中学校選択制度検証委員会を開会いたします。  
本日の委員の出席状況について、まず事務局から報告をお願いいたします。

【事務局】  
本日は田中委員、関口委員、竹内委員から欠席の連絡を頂いております。以上です。

【委員長】  
ありがとうございます。次に、配付資料について、事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】  
≪配布資料確認≫

2 案件 選択制度全般に関する検証

(ア) 検証委員会の課題とアンケート状況について

【委員長】  
それでは、次第に沿って議事を進めてまいります。本日より学校選択制度全般に関する検証に入  
っていきたいと思います。  
まず、案件(ア)検証委員会の課題とアンケート状況について、事務局からご報告いただきます。  
お願いいたします。

【事務局】  
≪会議資料 P 1 説明≫

【委員長】  
ありがとうございます。現時点で確認しておきたいことはございますか、いかがでしょうか。よ  
ろしいですか。

(イ) 選択制度の継続について

【委員長】  
続きまして次第の案件(イ)選択制度の継続についてご議論いただきます。事務局からご説明をお  
願いいたします。

【事務局】  
≪配布資料 P 2 説明≫

【委員長】  
ありがとうございます。制度継続に関する資料のご説明がありましたが、アンケートの内容や、  
選択制度の継続全般に関して何かご意見ありますでしょうか。

【委員】

選択制度は継続が望ましいと私も思っております。一方で持続的かつ連続性のある有効な制度にするためにも、アンケート結果を踏まえて適宜見直しを図るといったところで運用対処をすればいいのかなと思っています。否定的意見にありました「公立校で違いを見出す必要が感じられない、統一の教育環境を望む」という点については、公立校として一定の教育レベルの担保は保証しつつ、より特色ある学校づくりを心がけるということで、制度をより柔軟に生かして、選ばれやすいような学校づくりというのをやっていければ良いのかなと思います。

【委員長】

ありがとうございました。継続に向けてどういう形で取り組めばいいかというご発言だったと思います。

【事務局】

選択制度については継続して進めていきたいと思っています。また、公立校という枠組はありますが、現在も各校が工夫を凝らし、学校の特色づくりや魅力づくりに取り組んでいます。後ほど、その点についてもご説明をさせていただこうかと思います。

【委員】

会議資料のP2を見たときに、保護者や児童はどちらかといえば継続してほしいという意見が多い一方で、教員の方たちはどちらでもよい、もしくはどちらかといえば継続しないという意見のほうが多いように見えます。このギャップがある中で、選択制度を導入して本当に学校が魅力づくりを主体的にやっていく気があるのかどうか、選択制度に対して何かネガティブな印象を教員の方たちが持っているのであれば、どうなのだろうという疑問を感じてしまいました。保護者としては、この制度自体があることによって安心感とか信頼性というのはある一定程度担保されていく部分だと思うのですが、一方、先生方にとってこの制度をネガティブに捉えられているようだとすると、そのギャップがどうやったら埋まっていくのかを区としてはどう考えているのかお聞かせいただきたいなと思います。

【事務局】

会議資料P2 1の【1】のところで、それぞれ区立中在籍者、国都私在籍者については継続という意見が多いのですが、教員では、「継続」については9.4％に対して、「どちらかといえば継続しない」、「継続しない」という回答のほうが高かったものです。その点は一番のギャップかなと認識しております。

1の【3】の意見の中でも、「魅力づくりに繋がる制度ではない」とお考えになった教員の方々もいらっしゃいました。各校で特色づくりや魅力づくりに取り組んでいただいておりますが、公立校としての枠組があるので、国都私立の中学校と比べると差が生じにくいという感想を抱いている教員の方々が多いのかなと思っています。

後ほどご説明させていただきますが、制度を運用していく中で、学校の負担にならないように、どのような形で取り組むことができるのか、教育委員会としてどういったことができるのかというのは、改めて考えていきたいなと思っております。以上です。

【委員長】

ありがとうございます。私のほうで補足させていただきます。先生方のアンケートは制度継続について、「どちらでもよい」というのが一番多いところでして、多くの先生方が中立のところにあり、賛成が若干多くて、反対が少ない、そのような分布だと思うのですね。これをどう見るのかというのは難しいところなのですが、補足での説明になります。

【委員】

それはすごくおっしゃるとおりだと思うのですが、会議資料のP1をみると、アンケート調査の回答率が教員の方は49.8％となっています。内訳が別紙3のほうで出ていると思うのですが、これを見ると、校長先生は33校のうち18人しか回答していないわけです。回答していない半分の方は、より消極的な意見をお持ちなのではないかなと推測してしまいます。アンケートの結果としては賛成が多く見えているけれども、実態はどうかということを考えて、より「どちらかといえば継続しない」や「継続しない」といった傾向が強く出てもおかしくないのではないかなと思うので、継続について、忌憚のない学校の認識を確認したほうがいいのかなと感じます。

【事務局】

教員向けのアンケートの回答の細かな点は別紙3に記載しております。例えば別紙3の2ページにあります、問5のその他の回答では、「学区外通学者により、小学校で構築された人間関係のバランスが崩れた。クラス分けの配慮に苦難。」といったご意見もございます。また、3ページ問6のその他の回答のところでは、「校外学習の集合解散場所の配慮が必要。」など、通学区域外からのお子さんが増えたことによって、学校でもいろいろと配慮することが増えて、負担が重くなっている実感を持たれていると認識しております。他にも「災害時の対応が複雑化した。」という回答があり、災害時にどのような形で帰宅をさせるのか、また、遠方から通っているお子さんはどのように対応するのかといった、もしものときのために考えていかななくてはいけないことが、各学校でも課題として浮かび上がってきているのかなと認識しております。

【委員】

今の委員の意見に私も感じるところがあるので、私もコメントさせていただきます。別紙3の問5について、制度そのものの話とその回答に違和感を抱きました。例えばその他の回答の「学区外通学者は生活指導上の問題を抱えていることが多い。」について、これは事実とします。ただ、一方で「問題を起こしやすい」という点は、何かそれを予見してこの制度の是非を判断するような話にはならないのではないかなと思います。あとは「不登校生徒の対応、別室登校者の対応が増えた」という回答、これなかなか根深い問題があります。何で学区外の学校を希望するのかという話になった際に、在籍していた小学校での人間関係で苦労していて、中学校に上がるタイミングで心機一転、学区外の学校へ通わせることで、中学校を卒業できて高校も行けたと、だからこの制度は非常に有効だったというお話もありました。

さらに、「学区外通学者により、小学校で構築された人間関係のバランスが崩れた」という回答では、逆に保護者は歓迎すべきことだなと感じるところです。なぜならば小学校で6年間続いた人間関係をさらにもう3年間続けるということは、まれなケースがあって、中学校になると部活動も始まり新たな人間関係が出てくると思います。学区域外から新たに来るということは先生方にとっても学校経営やクラス運営の前向きな材料と捉えていただけないかなということで、この制

度そのものの是非に対する回答には若干とりにくいかなというのが、私の意見でございます。

また、地域というのは連続しています。例えば非常時や災害時に、公助・共助というのを地域として行う場合は隣接区域のパトロールや人間関係づくりが、より災害時の即応力になるので、これは逆に歓迎すべきことではないかなというのが意見でございます。このあたりを踏まえて、制度・施策の落とし込みを図ればいいのではないかなというのが意見でございます。以上です。

【委員長】

ありがとうございます。何かほかにご意見ありますか。

【委員】

この件に限ってということではないのでしょうかけれども、選ぶ側と選ばれる側というのは、見方が変わってくるというのは当たり前のかなと思います。選ばれる側としてはいろいろ言いたいこともきっとある中で回答していただいたのだと思うのですが、結局は選ぶ側に視点を立ててよりよい制度にしていくというところを我々は考えていますので、制度が有効に機能しているということは、教員の方々に理解していただくように努めていきます。また、教員の方々の意見や要望についてはしっかりと伺い、制度に反映していきたいと考えています。

【委員長】

ありがとうございます。

【事務局】

やはり立場が違うといったところは大きいと思います。選択制度を運用している中では、そこまで大きなひずみがあるとは思っていないので、この20年培ってきた選択制度を継続し、その中で教員の方々のご意見ご要望等はできる限りお聞きして、反映できるところは反映しながら、改善を図っていきたいと思っております。

【委員長】

ありがとうございます。こういった形で様々な意見を踏まえて、よりよいものにしていくという方向性かなと思いますし、繰り返しになりますけれども、先生方の中でも多くの方が、どちらでも対応しますという身構えでいらっしゃると思います。継続に賛成されている先生方もたくさんいらっしゃる中で、このようにしたほうがいいのか、こういう問題があるというご意見が、先生方のほうから多々出ているのも承知しております。そうしたご意見を踏まえて、この制度をよりよくしながら継続していくということで考えていきたいなと思います。

## （ウ）選択区域の設定について

【委員長】

それでは、その次に進みます。案件（ウ）「選択区域の設定について」、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

【事務局】

≪会議資料P3説明≫

【委員長】

ありがとうございます。ただいまのご説明について皆様からご意見がありましたらお願いいたします。

【委員】

選択制度で地域を区切るという話が、デメリット、メリットあると思うのですが、どこに住んでいても自由に選べるという自由度があったほうが、心理的には安心だなという点があります。もちろん災害時の対応等の問題はあるのですが、それは別の議論になるかなと思っています。まずは保護者視点で中学校に上がったときに自由に学校が選べるというのはすごくいいと思いました。

【委員長】

ありがとうございます。

【委員】

別紙4を見ると、実際に隣接校以外から通学しているのは1.5%で、大分少ないということを見ると、最初の議論でもあった災害とか、地域とのつながりのような影響というのもかなり限定的なのではないかなと思います。なので、先生方が懸念されている部分と実態のギャップについては少し整理しておく必要もあるというのが1つあります。この少なさであれば、隣接区に限定する必要性はそこではないのかなと思います。

また、入学を希望した学校を選択した理由は何かという質問の中で、指定校のためとか、学校の近さ、アクセスみたいなどころがあると思うのですが、先生方の認識と保護者、児童たちとのギャップがある部分というのはどういうところなのかというのが分かれば教えていただきたいです。別紙3の教員向けアンケートの問3だと、「生徒の様子」が8.7%なのですが、一方で別紙1の区立中向けアンケートの問2を見ると、「生徒の様子」が0.4%。ここのギャップがどういう理由なのかというところを事務局としてはどう見ているのかというところと、あとは「部活動の有無や活動状況」もそれなりにギャップがあると思います。また、「学校の校風や様子、教育方針」というところを重視している方も、保護者の中にはいますが、先生方のところでは大きく重視されていないという点もあると思うので、この辺のギャップを区としてどういう認識があるのか、また、先生方のほうで何か理由が分かるようなものがあればちょっと教えていただきたいなというところです。

【事務局】

まず、委員の方々がおっしゃられたように、選択できる区域を制限するという考えは、私どもも持っておりません。委員の方々から頂いたご意見は、事務局の考えと合っているものと思っています。

つぎに、先生と保護者児童たちの考え方のギャップです。この別紙3の問3では選択理由を聞いていますが、「部活動の有無や活動状況」や、「学校の近さや通学のしやすさ」、また、「友人関係」や「兄弟親族等の在籍校や卒業校」、これらの項目が非常に高い数字となっています。その中で部活動を選択理由と挙げた方については、学区外の方は非常に高かったのですが、指定校の方は、そこまで高くなかったと認識しております。

部活動については、各校で同じ部活があるとも限らないですし、また、部活動の中でも成績が優秀な部活動もあるかと思うので、そういった意味では学区外の方々が選ぶ理由として大きい

のかなと思っております。

事務局では、中学校在籍者のイメージと、教員の方々のイメージでは、そこまで大きな差は生じていないのかなと思っております。以上です。

【委員長】

ありがとうございます。

【委員】

小学校の立場からお話しさせていただきます。中学校としてはきっと遠くから来ると難しいところもあるかもしれないのですが、私の今までの経験だと、入りたい部活動があり、遠くの学校に行きたいということであるとか、人間関係でトラブルがあり、近くの学校に通うと登下校で会ってしまう可能性があるといった理由から遠くの学校に通いたいというお子さんや保護者もいましたので、やはり自由度を持たせて選べるというのはすごくいい制度だなと思います。中学校のほうは大変なところもあるかもしれませんが、小学校としては自由選択で進めていただけると本当にありがたいなと感じております。

【委員長】

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

【委員】

以前、再登校のときに、下校させづらいという意見を拝見しました。遠くの学校を選んだ時のデメリットを中学校に入る前の段階では聞くことはないと思うので、中学校では再登校があるとか、集合する必要があるときに最寄り駅でない可能性とかもあるといった情報を事前に周知するような形があると、入ってからのギャップが少なくなるのかなと思っています。

地域とのつながりという部分では、区立中に通わない子が区内では20％程度いますし、小学校で地域性を十分作っていると思いますので、中学校に地域のつながりを求めなくてもいいのではないかなと思っております。以上です。

【委員長】

ありがとうございます。何かこの点についていかがでしょうか。よろしいですか。

【事務局】

別紙1の問3において、中学校選択の際に参考したものについての回答で、「学校説明会」は非常に高い結果を表しておりました。そういった意味では学校説明会で学区域外からの通学に関する注意点を事前に周知することが望ましいと思いますので、各校のほうにもお知らせしていきたいと思います。

区立外に通う生徒については、地域によっても若干差はありますが、高い地域ですと30％近くぐらい国都私立のほうに進学する地域もあるので、小学校での地域性をどう中学校につなげるのか、という観点が非常に重要かなと思っております。

【委員長】

ありがとうございます。何かほかに。

【委員】

選択区域の設定についての資料がたたき台として分かりやすく、頭の整理ができました。今まで

の意見の過程を踏まえると、委員の皆さんが言っているのは、自由選択制の継続という流れかなと思っています。というのも、隣接学区選択制、そして一定程度の縛りを設けた上での選択制、これは1. 数％。これをどう見るかというところの議論はあるのですが、いじめ等の問題について踏まえると、地域を替えることで解決できる。これは中P連としても所望したいかなと思っています。

あと、隣接校数の不平等感の解消については、どんな施策を講じようとも、自由選択でない限り、どうしても起こり得る問題で、ここにパワーをかけるというよりも、自由選択の継続が妥当ではないかなと思います。

【委員長】

ありがとうございます。多くのご意見は、学校説明会での情報提供等をしっかりしていけば、自由選択制を維持できるのではないかというものと理解しましたが、いかがでしょうか。

【委員】

先ほど意見があったのは、保護者や生徒が選んだ理由と、学校が選ばれたと思う理由のギャップについてお話をされていたところですね。学校は、生徒の様子を見て選んでいるとか、そういうところがやはり高い。この辺の理由は分からないですが、ギャップがあることは学校の教員のほうにも伝えて、どういう理由で選ばれているのかというところは伝えていかなければいけないかなというところは、改めて感じたところです。

【委員長】

ありがとうございます。ご意見としていただきます。

## (エ) 学校の魅力向上と制度周知などについて

【委員長】

案件(エ)に移ります。内容に関して事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】

《会議資料P4、P5説明》

【委員長】

ありがとうございます。ただいまのところにつきましてご質問、あるいはご意見ありますか。

【委員】

2つあります。まず、学校の魅力づくりについて、各校の魅力づくりというのは、意味としてはよく分かるのですが、練馬区立中学校の魅力は何ですかと言われたときに、ちょっと答えづらいというところが正直なところ。例えば、渋谷区の小学校だと、午後の時間、全て探求型の学習に切り替えるという報道がされていたと思います。渋谷区は小学校全体としてそういうことに力を入れているのだなというところが魅力の1つとも言えると思います。では、練馬区の中学校全体の魅力は何ですかと言われたときに、ぱっと思いつかばないというところが正直なところ。まず全体としての魅力どうしていくのかという議論があり、その議論があったうえでさらに各校でより魅力的なものにするにはどうするのかという議論なのかなと思います。この場で話すのが

適切かどうか分かりませんが、もう少し中学校全体の議論というのを充実させていく必要があるのではないかなというのを感じました。

もう1つ、制度の周知の部分でいうと、現状、選べるだけの情報のインフラが整っていないというところがあると思います。今年度より小学校 4 年生向けにも学校案内に関するチラシを配信して頂いたと思うのですが、しっかり保護者に伝わっているかどうかというのは、また別の問題かなと思うので、周知というところについてはもう少し検討していただくほうが伝わり方というのは変わると思います。どこまでやればいいのかというところはなかなか難しい問題かと思うのですが、恐らく現状では伝わっていない保護者も一定数いらっしゃるのではないかなというのを実感したので、ご検討いただけるとありがたいなと思います。

【委員長】

ありがとうございます。2点ございましたが、関連することでご意見等ございますか。

【委員】

まず、学校の魅力づくりについてのお話について、資料にもありましたが、学校の魅力発信に当たっては、まず学校案内をベースに Y o u T u b e 等活用し配信、親しみやすさと分かりやすさを心がけた内容にしていだきたいというのが、全体的なところの意見です。特に生徒主体で作成する P R 動画については、非常に賛成するところがあって、発信する子どもたちの育成にもつながるかなと思っています。例えば、単純に生徒会主体というわけではなくて、いろいろな生徒と進めていただければ、将来進学するにしても就職するにしても、自らの魅力を発信できること、これが生きる力の育成にもつながっていくなと感じています。なので、この施策というのが進むことを願っております。最近では都立高校の P R もよくできているのですね。広義の意味での同じ公立校として、都立校の事例を参考に作っていただいてもいいのかなというのがコメントでございます。

次に、制度の周知や取組について、学校説明会の日程の重複についてはやはりタイミングの調整が難しいかなと思うので、教職員の過剰負担にはならないように現状維持でいいのかなと思っています。ただ、時期については、年々私立校は前倒しを進めてきて競争が進んでいるところもあるので、私立校の対応を考慮しながら、開催時期については考えていければいいのかなと思っています。

【委員長】

ありがとうございます。2点、魅力づくりについてと、それから周知についてですね。

【事務局】

まず、魅力づくりについてです。練馬区の中学校の魅力としては何なのか、ひとえにこれが魅力ですと告示するのは難しいと思うのですが、各校の取組の中で、部活動であったりとか、行事であったりとか、各校それぞれ違いがございますので、その点が各校の特色なのかなと思っています。また、学校案内冊子では、レイアウト等の制限があるのですけれども、その中で各校とも工夫を凝らして P R をしていただいているところでもあり、そのような点で各校の魅力を伝えられているのかなと思います。全校まとめてここが魅力だというのはお伝えしにくいところではあるのですが、各校で工夫し、魅力を発信していただいているということでご理解いただければなと思っています。

情報の発信については、私どものほうも課題があるかなと思っております。小学校 4 年生に対しての周知は今年度から始めたばかりですので、工夫の余地もまだあるかなと思いますし、また、5 年生・6 年生に対しての周知の方法についても、いま一度検証して、工夫できるところがあればさらに取り組んでいきたいなと思っております。

学校の説明会の日程の重複について、各校で年間スケジュールを調整しながら、どの時期に説明会を行うのかということも検討されています。今までも日程重複のないよう、各校にご案内をしてきたところでございますが、再度、なるべく近隣校同士が重ならないような形で調整のお願いをしていきたいなと思っております。

保護者の方や子どもたちに正確な情報が正しく伝わるよう、取り組んでいきたいなと思います。以上です。

【委員長】

ありがとうございます。補足で、魅力づくりについて最初にご意見があった区立中学校全体の特色というのは、この会議体を超えたご提案で、これは教育委員会のほうで、どういう形で区全体として練馬区の教育の特色を発信していくのかということについてのご意見だと思いますので、そういう形で受け止めさせていただきます。また、生徒主体での情報発信につきましてもご提案として受け止めさせていただきます。

制度の周知についても今、事務局のほうから回答がありましたように、いろいろな工夫をしてなるべく皆さんに周知できるように努めていきたいと思います。何かほかに意見がございましたら。

【委員】

1点確認なのですが、制度の周知の部分について、小学校では s i g f y 等のデジタル化は進んでいるのでしょうか。念のための確認になります。

【委員長】

周知の仕方としてデジタル化がどのくらい進んでいるのか。学校のほうの状況が分からないので、先生方のほうでご説明いただければと思います。

【委員】

うちの学校では、お便りはほとんど紙ではなく s i g f y で送っています。紙だと子どもが渡さないということもあると思うので。

【委員】

それでもまだ気づかれていない保護者の方がいるという事例だったのかなと。そうすると周知の方法はさらに工夫が要るのだなと思いました。

【委員】

うちの場合は、s i g f y と紙で配布されているという状況でした。配られたものが本当に文字でば一っ書かれているような内容だったので、深く読み込んでいる保護者は恐らく多くはいらっしゃるなかったのではないかなという印象です。これは紙面の内容をより分かりやすいものに、少しずつ変えていただく必要があるのかなと思います。

【委員長】

ありがとうございます。一層の工夫をということで受け止めさせていただきます。ほかにいかが

でしょうか。

そうしましたら、ここまでで今日用意した議案は以上ですね。何か他に意見などありますか。

【委員】

アンケート調査につきまして、次回調査をするときにご検討いただけたらと思うのですが、今回このアンケートは7月25日に中学校から配信されたと思います。保護者としては入学して時間がたち、当事者意識が全く薄れた後なのですね。委員会が開催されてからではないとアンケートの調査は難しいのかなと思いますが、できれば2月とか3月とか、進学する中学校が決まった直後とかに実施していただいたほうが、回答率も上がるのではないかなと思っております。以上です。

【事務局】

今回は検証委員会でアンケート項目の細かな点をいろいろご指摘いただき、それから各校にアンケートを行いましたので、このような日程になりました。こちらの検証委員会については、おおむね5年に一度を目途に立ち上げて、同じようなアンケート項目を定点で聞いていますので、次回の検証委員会でアンケート調査をやるときは、開催の時期についても考えていきたいなと思っております。

また、毎年選択希望票の中でも、お子さんに対してアンケートを行っております。全般的なものではありませんが、選択希望票でのアンケートは継続していきたいなと思っております。以上です。

【委員長】

ありがとうございます。

【委員】

アンケートの内容については、定点観測で変わらないのであれば、委員会が始まっていなくても調査することは可能だと思いますので、ご検討いただけたらと思います。

【委員長】

ご意見ありがとうございます。ほかによろしいですか。

そうしましたら、様々なご意見頂きましてありがとうございました。制度全般につきまして本日はいろいろご議論いただきまして、振り返りますと、選択制につきましては現状の自由選択制を基本としながら進めていくということだったと思います。それから制度の周知の仕方や各校の魅力づくりについて、一層の努力をとということだと思えます。それから説明会の日程の調整をうまくしていく必要があるとか、そうしたこともご意見頂いたと思います。

本当にいろいろご意見頂きましてありがとうございます。

### 3 事務連絡

【委員長】

最後に事務局から事務連絡です。

【事務局】

《事務連絡》

【委員長】

ありがとうございます。そうしましたら以上をもちまして、本日の検証委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。